

現場の失敗と
その反省
⑪-14

床版工事での失敗

1. 工事内容

当工事、橋梁床版（W = 12.5m、L = 100m）工事であり、施工期間が平成18年10月より平成19年3月迄である。

コンクリートの打設時期が冬期間になる為、雪寒仮囲として全区間（L = 100m）を施工した。

2. 工事の経緯

当初から工期には余裕もあったが、工事場所は日本海の沿岸部であり、国道から約100～200mしか離れていなかった。また、周辺には山があるものの、風向きは毎日のように変わり、日本海の風をまともに受けることが多かった。

型枠作業を終えて、鉄筋組立作業の終わるのを待って、雪寒仮囲の作業に入った。

仮囲の強度計算は積雪量、風力を考慮して行い、ある程度の強度を保つものと判断していました。

床版の打設回数は、5回に分けられて計画されていたので、1回目、2回目と順調に施工出来ましたが、年末年始の休暇に入りこの時点ではシートに多少の破損は有りましたが、特段問題は有りませんでした。しかし休暇後半の強風により、約40m間の仮囲が吹き飛ばされ約25m下の水田へ落下したのです。

直ちに作業員とクレーン（45t）によって片づけを行い、雪寒仮囲工の復旧作業に取り組んだ。

3. 原因

強風、暴風には十分考慮したものの、日々のブルーシートの裂け具合、作業終了前の現場点検（隙間風）等が不十分であった為、前日の強風により雪寒仮囲が飛んだと思われる。

4. 反省点

冬期休暇中でありケガ人もなかったが、二度と同じ失敗を繰り返さないように、現場点検により安全管理を徹底し、今後の工事に取り組んでいきたい。



写真-1 雪寒仮囲災害状況



写真-2 雪寒仮囲散乱状況